

再評価結果

担当課：高速道路課

担当課長名：中神 陽一

事業名	一般国道126号 千葉東金道路 (東金JCT～松尾横芝)		事業区分	一般国道	事業主体	東日本高速道路(株)
起終点	自：千葉県東金市丹尾 至：千葉県山武市松尾町谷津				延長	16 km
事業概要	千葉東金道路 東金JCTから松尾横芝ICは首都圏中央連絡自動車道の一部となって高規格道路ネットワークを形成する有料道路である。					
H2年度事業化	H4年度用地着手		H5年度工事着手			
全体事業費	約1,263億円	事業進捗率	86 %	供用済延長	16km	
計画交通量	14,100～15,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 1.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 110 / 1,970億円 事業費 : 86/1,743億円 維持管理費 : 24/ 227億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 213 / 6,045億円 走行時間短縮便益 : 202 / 5,380億円 走行経費減少便益 : 7.7 / 449億円 交通事故減少便益 : 3.7 / 216億円	基準年 平成24年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C = 1.7 (交通量 -10%)		B/C = 2.1 (交通量 +10%)			
事業費変動	: B/C = 2.1 (事業費 -10%)		B/C = 1.8 (事業費 +10%)			
事業期間変動	: B/C = 2.0 (事業期間 -1年)		B/C = 2.0 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 都市の再生(広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する) 個性ある地域の形成(主要な観光地へのアクセス向上が期待される) 					
関係する地方公共団体等の意見	<p>一般国道126号千葉東金道路は、東京湾アクアラインと一体となって、東日本と西日本を結ぶ大動脈となる圏央道として機能するとともに、災害時には、都心部の高速道路の代替路としても極めて重要な役割を担っている。</p> <p>また、来年春、開通する圏央道の東金から木更津間と当該区間がつながることにより、東京方面から成田空港へ2ルートが確保され、アクセス強化が図られることになる。</p> <p>については、今後、交通量の増加が見込まれるとともに、アクセスの信頼性を高める必要があることから、工期短縮を図り、予定よりも早期に工事着手し、一日も早い開通をお願いしたい。</p>					
事業評価監視委員会の意見	特になし					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成23年の平均交通量は10,300台/日である。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成10年3月に東金JCT～松尾横芝間が暫定供用。残事業の内容は4車線化工事。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線供用であるが、概ね4車線分の用地取得が完了している。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	<p>一般国道126号 千葉東金道路 (東金JCT～松尾横芝)</p> <p>供用中区間 (実線)</p> <p>事業中区間 (点線)</p>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものを。